

向かい風に向かって

20 年位前に海外旅行に行った際、こづかいを貯めて無理して買った大切な腕時計の電池が切れたので、電池交換してくれる時計屋さんを探していました。たまたま、大阪ミナミの地下街を歩いていると、宝石屋さんに「電池交換 500 円」と書いた張り紙があったので、「これは安い!」と思い、女性の店員さんに「海外のブランド物でも 500 円ですか」と聞いたところ、「そうです」とのことだったので、「お願いします」と時計を預けました。

すると、店員さんが店の奥の衝立に囲まれた作業場らしき所へ預けた時計を持って行き、相当ご年配の男性に預けました。失礼ながら、こんなご年配の方が精密な時計の電池交換ができるのかなあ、と不安に思いながらも、その交換の様子を見ていました。その男性はルーペを目に挟みながら慣れた手つきで時計のフタをパカッと開けると、「お客さん、これフタのふちの部分がサビだらけですね」。「最近の時計屋さんは電池を交換するだけで、こんなサビなど取ってくれないから、フタが浮いたりして、そこから汗などの水分が入ったりするんですわ」。

サビを器具できれいに除去、時計のフタは洗浄機で洗ってくれました。「私らは若いころは電池交換の時は必ずサビを取って、フタを洗浄するように教えられてきました」。「こんなに安いとお客さんからいろいろ言われるんですわ。安い電池使ってるんやろ、とかね」。「安い電池を使うと、液漏れで時計を潰してしまう恐れがあるので、うちは一流メーカーのものしか使いません」。「まあ、私もこんな商売(宝石屋)やってるんで、こんな景気ですからそんなに忙しいもんじゃないんで、暇つぶしとボケ防止みたいなものでこんなことやってますねん」。

聞くと、この男性はこのお店のオーナーで、時計に関わって 60 年以上になるとか、昭和 3(1925)年生まれなので年齢は 80 歳になります。電池の交換が終わると、きれいに時計を磨き、ビニール袋に入れて手渡してくれました。「また、次もその次も電池交換してほしいんで、いつまでも元気に仕事続けてくださいね」、と言ってお店を後にしました。値段の安さはともかく、見えないところにまで気遣うこだわりは、ほんとの意味でのプロの仕事を垣間見た気がしました。たった 500 円で蘇ったかのように綺麗になった時計を早速はめて、満足した気分でそのまま忘年会に行きました。

さて、今月 12 日に、自民党の平成 21 年度税制改正大綱が発表されました。今回は不況による景気対策を意識した、減税中心の内容となっています。しかし、このまますんなりと法案となって通るのか? 今年の春も税制改正法案が参議院で通らずに時間切れとなり、ガソリン税の暫定税率分が一時的に廃止となって混乱したことがありました。ましてや、現在の内閣の支持率が 20%そこそこで、今衆議院選挙を行えば自民党が大敗するのが目に見えているので、かつてのように自民党の「税制改正大綱」がそのまま法律として施行される保証はどこにもありません。民主党は独自の税制改正法案を参議院に提出しています。昨年度のように、「税制改革大綱」を自民党に対抗して発表する可能性もあるなかで、税制に関しては政治状況によっては行方が分からないような状況になりつつあります。

先日のテレビの報道番組で、与野党の大物議員 4 人が出演し、次期衆院選後には政界再編が必ず起き、このメンバーが政界再編の軸になる、などとまるで評論家のような議論を行っていました。その 4 人の頭文字をとって、YKKK(山崎、加藤、菅、亀井)と称するそうです。番組の司会者は、今の政治状況を幕末になぞらえ、あなたは坂本竜馬役、あなたは高杉晋作役・・・だのと持ち上げていましたが、当時の幕末を演出した政治家は 20 歳代から 30 歳代が中心で、YKKK の 4 人の平均年齢は 69 歳! どこか違和感があり、過去活躍した方達という印象で、もはや賞味期限切れといえなくもないような気がしましたが・・・。

金融危機の影響による不況が深刻化していますが、かつて、歌手の谷村新司さんが苦境に立たされた友人に贈った、「鳥は飛び立つときに、必ず向かい風の方に向かって飛び立つ」という言葉があります。向かい風があるから前に進めないのではなく、このピンチをチャンスに変え、向かい風を受け止めて一歩でも前に進もうとする人たちは上昇する、という意味にもとれます。皆さんにとって、来る 2009 年が良い年でありますよう祈念しております。今年 1 年ご愛読ありがとうございました。